



中国遼寧省大連市の
国際金融コンベンション
センターと高層ビル
群。2020年には、ここ
に518mの超高層ビル
が立つ予定だそうです。

あじけん通信

2017 MAY
VOL.113

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 瀬谷 健司

5月に入りました。街のあちこちで、実習生の皆さんの目を楽しませていた桜の花は散ってしまいましたが、アジアの各国から、きぼうに満ちて集まったエネルギッシュな実習生の皆さんには、ぴったりの季節のような気がしています。日が延びたことで、早朝からジョギングに励む実習生や、放課後の夕暮れ時に、友達と寮周辺の公園に散歩に出かける実習生等、授業時間以外でも、活発に活動する実習生の姿を目にすることが多くなってきました。体調を崩す実習生の数もめっきり減り、皆さん元気いっぱい日本語学習に取り組んでいます。

あじけんスコープ Vol.53 ～実習生による登下校マナー向上活動～

今月のあじけんスコープは、4月から取り組んでいる実習生主体の活動、「登下校時のマナー向上運動」の様子をご紹介します。この活動は寮があるアジア研修センターから、きぼう校舎までの通学路に、クラスで選ばれたリーダー実習生が立ち、登下校するクラスメイトたちに、道路を歩く時のマナーを守るように呼びかける活動です。実習生の皆さんが主体となり、お互いに注意を呼びかけ合うことで、上からの一方的な押し付けではなく、技能実習生としての自覚や、自律心を内面から育てることを目的として取り組んでいます。効果は抜群で、これまでは、目を離せば2列、3列で話しながらの登校が当たり前だったのですが、今では、自発的に1列歩行に取り組み、安全かつスムーズな登校が定着しつつあります。



今月の実習生

今月の実習生は、恩師との偶然の再会を果たした元技能実習生の李永群(リ エイグン)さんをご紹介します！



当時の担任岡田先生と李永群さん

皆さん、初めまして。李永群と申します。私は、2015年9月に日本へ行って、きぼう国際外語学院で1ヶ月間、日本語を勉強しました。担当の先生は岡田先生でした。北海道のホテルで実習しました。帰国したあとに旅游学校に入って、今は、日本語の教師として、働いています。今回、きぼう国際外語学院の先生方が中国に研修視察に来ると聞いて、「もしかしたら岡田先生に会えるかもしれない」と楽しみにしていました。日本にいた間、岡田先生には、色々とお世話になりました。2年ぶりに再会した岡田先生は元気そうで、当時とちっとも変わってなくて、とても嬉しかったです。

中国研修視察レポート

今回は、4月27日から3泊4日の日程で、受入れ団体の方々のご協力を得て実現した本校日本語講師及びスタッフ総勢18名による中国（山東省・遼寧省）への研修視察旅行の様子をお伝えさせていただきます。現地では、4つの日本語学校を視察し、授業見学や中国人日本語講師の皆さんとの交流会、実習生の実家訪問等、大変充実した内容の研修視察となりました。授業参観では、来日を数ヵ月後に控えた実習生の卵？の皆さんが、目を輝かせて、熱心に日本語学習に励む姿を見て、実習生の皆さんが、期待に胸を膨らませて、日本にやってくることを実感しました。現地の中国人日本語講師との交流会では、実習生への効果的な日本語指導のあり方について、私たちと同じように悩み、試行錯誤を繰り返しながら、真摯に日本語指導と向き合っていることを知り、彼らの思いを引き継ぎ、日本での日本語指導に取り組んでいく重い責任をひしひしと感じました。また、実習生の実家訪問では、先月まで、娘さんが本校で日本語を学んでいて、現在、日本で実習中というご両親とお会いすることが出来ました。ご両親から、娘がいつも「日本の学校は毎日楽しい、先生も親切だから安心して」と言っていたというお話を聞かせていただき、日本語指導を通して実習生の皆さんと関わるという事は、実に多くの方々と繋がっていることを身をもって体験し、実習生の皆さんの現在だけでなく、過去（来日以前の生活）と未来（実習生としての生活）を常に意識した日本語指導の大切さを痛感し、身が引き締まる思いがしました。この貴重な経験を活かし、本校スタッフ・日本語講師一同、これからも、実習生のことを第一に考えた日本語指導に誠心誠意取り組んでいきたいと思いをします。



真剣な表情で授業に取り組む実習生の皆さん



日本からの大勢の見学者の前でも堂々と発話する実習生



現地の日本語講師との意見交換会



実習生の実家を訪問。左から2番目がお父さん、3番目がお母さん

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます